

【第5回】徳島県総合計画審議会「若者クリエイト部会」

テーマ:「人口減少時代における地域を支える仕組み ～今後の徳島づくりを見据えて～」
 についての提言

【ポイント】

テーマ「人口減少時代における地域を支える仕組み」について、「今後の徳島づくり」を見据えた議論

- ①徳島の現状・課題について感じたこと
- ②必要な取組み
- ③本県が有する可能性

No.	提 言 内 容
1	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県全体として人口の減少が著しい。大学を卒業した若者が戻って来たくても、就職先がなく県外で就職し、そのまま結婚して住んでしまうパターンが多い。このままでは益々高齢化と人口の減少が続く。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まず若者に帰ってきてもらえる県を目指す。企業の誘致。サテライトオフィス等、ブロードバンド環境が整っていれば地方でも働ける新しい分野の企業にも来てもらえるような取組み。 ・ 大学を卒業し、徳島で就職をするためにUターンした若者には何か特典を(例えば「家賃の一部補助」「車購入費用の一部補助」等)。さらに徳島県内で結婚してくれた夫婦に対しても何か特典があると、帰省するきっかけにはなるかもしれない。 ・ Iターン希望の若者を増やす。田舎暮らしの利点のアピール。「子育てするなら地方！」というブランド力をもっと前に打ち出し、「大きな家で伸び伸び子育てができる」「安全な食や水」「保育園・幼稚園・ファミサポなどの充実(待機児童少ない)」「満員電車に乗らなくても通勤できる」「サーフィンやサイクリングなど自然を生かした趣味が楽しめる」などのイメージを広くアピールする。 ・ Uターン、Iターンにしる、徳島は田舎だが、都会で暮らすより(少々給料は下がっても)、実質は豊かな暮らしができるという利点をもっと具体的に制度化し、メディアで移住したい県として取り上げられる位の思い切った行政サービスに取り組んでいく(子育て世代に優しい町というイメージ)。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年収700万円の都会暮らしより年収3～400万円の田舎暮らしの方が、毎日の生活が豊かに暮らせるというイメージを広げ、田舎暮らしに憧れている人の移住や出身が徳島県の人へのUターンを促す。 ・ 空き家(マンション・アパート含め)がある大家が登録し、Iターン&Uターンの若者に安く提供できるようなシステムを構築(過疎地域を含め)。 ・ 徳島県で若者が結婚し家族をもてるようにサポート。家賃や車、子供の預け先など。 ・ 徳島県で豊かな趣味を満喫できるようなサポート(現実的ではないかもしれないが)。行政サービスとして予約を入れると「釣りセット」「サーフィンセット」「キャンプセット」「船」などを借りることができ、どの趣味を本格的に始めるか、スタート地点として色々とお試しできるサービス等(移住を迷っている人に、試験的に数週間滞在してもらい、豊かな自然を満喫してもらえるようなサービス)。 ・ キーポイントは「安全な食べ物」。豊かな自然といった今あるものをブランディング化し、「田舎暮らし＝不便なもの」という従来のイメージから、「田舎暮らし＝豊かな暮らし」というイメージにしていくことが大切ではないか。
2	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本全国的にそうであったように、これまでは人口増加の中ですべてが発展してきた。それに相反し、徳島の中山間地域を含む日本各地の類似の地域は、すでに深刻な過疎化、高齢化、限界集落などの急激な人口減少問題を抱えており、これまでの考え方や価値観では解決しづらい問題の多さを感じずにはいられなかった。 ・ 例えば、生活安全などの面では、地域の人口(特に若い世代)が少なくなってしまう、「自主防災の仕組み」も成り立たない状態があった。また、地域の文化的な面では、これもまた人手不足でお祭りなどの年中行事の開催が難しくなってしまうという現実があった。 ・ 人口減少に伴う問題に対して、その解決策として人口を増加させることはほぼ不可能であり、人口維持も決して簡単なことではない。 そんな中、少ない人口や、これまでにない人口構成において、私達が「どんなアイデアで未来を創っていかねばならないか」を考えさせられた。 <p style="text-align: right;">(裏面へ続く)</p>

【第5回】徳島県総合計画審議会「若者クリエイティブ部会」

テーマ:「人口減少時代における地域を支える仕組み ～今後の徳島づくりを見据えて～」
 についての提言

【ポイント】

テーマ「人口減少時代における地域を支える仕組み」について、「今後の徳島づくり」を見据えた議論

- ①徳島の現状・課題について感じたこと
- ②必要な取組み
- ③本県が有する可能性

No.	提 言 内 容
2	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「1. 生活に最低限必要な機能」と、「2. 生活を潤す文化」、それら両方をバランスを取りながら実現していくことが必要なのかなと思う。 ・ 「1. 生活に最低限必要な機能」の面から考えると、防災が筆頭にあげられるのではないか。南海トラフ巨大地震の可能性については、甚大な被害が想定されているが、驚いたのは、「震災前過疎」なる現象まで起こってしまっているということ。被害が想定される地域の住民の生活を守るための様々な対策のはずが、将来に対する不安を助長させ、その地での生活を現時点で諦める結果まで招いてしまっていることはなんとも皮肉なこと。このような現実を聞くと、本当に難しい問題であることを実感する。 行政、住民、ともに根気強く考えていく他ないことかと思うが、全ては命あってことで、この課題の解決は欠くことのできない部分。 ・ 世界中どこへ行こうと、決して100%安心安全とは言えない、災害の可能性と付き合いながら生活していく、その一つの意味が「2. 生活を潤す文化」のように感じている。 徳島に住まう人々が、少しでも生きがいを感じ、充実した毎日を過ごしていくためには、「徳島らしさ」が脈々と受け継がれていくことが欠かせないはず。様々な災害の恐怖や、不便さは種々あるが、人間として生きていくためには、恐らく命を守るだけでは足りない。自然や様々な環境と寄り添いながら、それらに生かされてはじめて人間は生活をできてきたはず。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ そんな中で育まれて来たのが、その土地々々の文化なのではないか。徳島には、全国に誇る阿波踊りがあり、海があり、山があり、川がある。一言では、全くもって表現しきれない、多種多様な地域性が徳島県内にはあり、そんな小さな文化一つ一つが、徳島の魅力だろうと思う。 それらの文化を守り、住民生活の心の豊かさを育てていくことが、ひいては住民の生命を守ることにもつながっていくのではないか。